

第IX因子の Immune Complex の免疫学的性質についての検討

神奈川県立こども医療センター血液科 飯塚 敏夫
長尾 大

目的

25 Bethesda 単位以下の第IX因子抑制物質を持つ血友病B患者で、第IX因子製剤投与後に、第IX因子抗原と抑制物質の Immune Complex と思われる沈降線が、第IX因子の二次元免疫電気泳動で検出されることは先に報告した。今回は、その Immune Complex の免疫学的性質について更に検討したので報告する。

方法

第IX因子の二次元免疫電気泳動の際に、抗人 IgG, IgA, IgM, L鎖 Kappa 型, L鎖 lamda 型家兎血清をそれぞれ20%含む 1%アガロースの中間ゲル層を設け、Immune Complex の沈降線の吸収の有無で免疫学的性質を判定した。更に、第IX因子の二次元免疫電気泳動を行なった後に、各種免疫グロブリンに対するペルオキシダーゼ結合抗血清を用いて、ペルオキシダーゼ染色の有無で Immune Complex の免疫学的性質を検討した。

結果

第IX因子抑制物質の免疫学的性質は IgG, L鎖 lamda 型分画に属しており、L鎖 Kappa 型分画についてははっきりしなかった(表1)。Immune Complex の免疫学的性質は、各種免疫グロブリンに対する抗血清を含む中間ゲル層を設けて行なった二次元免疫電気泳動による検討では、抗 IgG, L鎖 lamda 型家兎血清の中間ゲル層によって Immune Complex の沈降線は完全に吸収された。抗 IgM, IgA 家兎血清の場合は全く影響されず、抗 L鎖 Kappa 型家兎血清ではわずかに変化をうけた。(表1)。ペルオキシダーゼ結合特異抗血清を用いて検討した Immune Complex の免疫学的性質も全く同様の結果で、抗 IgG, L鎖 lamda 型家兎血清によって染色され、抗 IgM, IgA 家兎血清では全く染色されず、抗 L鎖 Kappa 型家兎血清で極めてかすかに染色された(表1)。以上のように、Immune Complex の免疫学的性質は、第IX因子抑制物質の性質と同一であり、このことは、この Immune Complex が、第IX因子抗原と第IX因子抑制物質の複合体であることを強く示唆するものである。

表1 第Ⅹ因子抑制物質と Immune Complex の免疫学的性質

Immunoglobulin Class	Inhibitor	Immune Complex
IgG	+	+
IgM	-	-
IgA	-	-
kappa light chains	+	+
lamda light chains	+	+

検索用テキスト OCR(光学的文書認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

目的

25 Bethesda 単位以下の第 因子抑制物質を持つ血友病 B 患者で、第 因子製剤投与後に、第 因子抗原と抑制物質の Immune Complex と思われる沈降線が、第 子の二次元免疫電気泳動で検出されることは先に報告した。今回は、その Immune Complex の免疫学的性質について更に検討したので報告する。